

栃木県生協連学習会

「未来のために知っておきたい 海とプラスチックの話」

講師：同志社大学経済学部准教授
特定非営利活動法人 プロジェクト保津川代表理事 原田禎夫氏



「海鳥やクジラの死骸の胃袋に大量のプラゴミ」「太平洋ゴミベルト」「イワシの胃袋からもマイクロプラスチック」、これらの事象を耳にするようになったのは10年～20年ほど前だったでしょうか。G20サミットなどでの各国首相による度重なる宣言も空しく、国際的な合意も進まず、世界のプラスチック生産量も汚染も拡大し続けています。そして、「海洋汚染のプラスチックの7割は陸から川を通じて流れ出した生活ごみ」という事実。私たち一人一人の暮らしが問われています。2050年には海洋中のプラスチックの重量が魚の重量を超えるとのこと。世界の食塩のほぼすべて、ペットボトル飲料のほぼすべて、水道水の8割からもナノプラスチックが検出されています。私たち人類はこの状況を食い止めることができるのでしょうか。

では、どうすれば

川や海のごみは

減らせるのでしょうか？

原田先生が代表を務めるNPO法人プロジェクト保津川は、川下りの観光名所でもある保津川の清掃活動や、オンラインゴミマップを使った市民参加によるごみのモニタリング調査を行っています。誰でもスマホで簡単に参加できるゴミマップ調査を続ける事で、2011年の清掃活動で20ℓで190袋集まったゴミが、2016年には10袋に減るという効果を上げています。始まりはたった二人の、保津川下りの船頭さんによる清掃活動だそうです。

プロジェクト保津川の拠点である京都府亀岡市では、2020年に日本初の「レジ袋禁止条例」が施行されました。2018年暮れの市と市議会による「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」から1年余り、小売店主らの猛反対もありつつ、担当課の市職員の、地道な説得と、プロジェクト参加者、特に学校でプロジェクト保津川環境教育を受けた子どもたちの声が賛成の声を上げていったそうです。条例施行後、月に70万枚を超えていた市内で使用されたレジ袋の枚数は1万枚に、エコバック持参率は98%に、2021年のGW後の保津川清掃調査で見つかったレジ袋は63枚でした(2019年は405枚)。市民も一丸となって制定された条例が、確実に使い捨てプラスチックの使用と環境に放出されるプラごみを激減させて

います。さらに、亀岡市の子どもたちは、給食の牛乳パックについているストローを無くす要望をメーカーに出し、メーカーも動き出したそうです。高校生は、ペットボトル削減を目指して、給水所設置の協力依頼に市内のお店を回ったそうです。子ども・若者からのボトムアップ、力強いです。

「プラスチック汚染を解決する単一の手法はない。政府による規制の実現には多くの時間と費用を要する。様々なアプローチを組み合わせることが必要。国家、地方、地域、企業、個人の各レベルでの効果的取り組みが不可欠。地域レベルから国際的レベルでの価値の共有が必要。」とのこと。

川のレジ袋、激減！

水辺のごみ見つけ！調査

- ・全国川ごみネットワークの調査
- ・毎年のGW BBQごみ一掃作戦で実施

	2019	2021
ペットボトル	180	292
レジ袋	405	63
カップ型 飲料容器	20	21

「いのちと環境、暮らしを守る」を掲げて、生産者につながり食の安全を守り、地産地消を大切にしてきた私たちの活動は、持続可能な社会づくりへ確実に貢献しています。しかし、食品の宅配という事業形態から「脱プラ」が難しい課題でもあります。「よっ葉生協」という組織として、そして一人の個人として、行動すること考えることを目を背けずに続けなければ、と思いました。

(理事 堀)



石けん生活、始めませんか

みなさんは、食器洗い・洗濯・シャンプー・洗顔・掃除など、どんな洗剤を使っていますか？

よつ葉だよりでも石けんについてお伝えしてきましたが、世の中には多くの合成洗剤が存在します。

合成洗剤は、数ある有害化学物質の中でも消費者が最も頻繁に、そして最も多く環境に排出しているものです。

テレビをつけると、シャンプーの香りや仕上がりのなめらかさや持続性、洗濯の仕上げ時の香りや衣類の柔軟性にすぎの手間など、消費者が欲しくなる情報をメインに合成洗剤のCMが日々流れています。



合成洗剤は1960年代から普及し始め、既に60年が過ぎようとしています。

普及し始めた当時、主婦湿疹と呼ばれる手荒れを患う人が増え、当時は布おむつが主流でしたが、赤ちゃんのおむつかぶれも問題となりました。

合成洗剤は主に石油から化学合成した合成界面活性剤で、分解されにくく界面活性作用が長く続くため、環境中にも残留します。そして人体やその他の動植物など生態系に悪影響を与えていくこととなります。

石けんは、主に動植物油脂に水酸化ナトリウムや水酸化カリウムを反応させて作られています。中には合成洗剤を加えた石けんもありますが、

「粉・固形せっけん」→「脂肪酸ナトリウム」

「液体石けん」→「脂肪酸カリウム」

石けんはこの2種類しかありませんので、上の2つを覚えておくとうまいと思います。

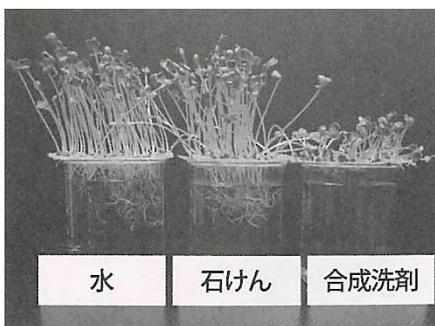
石けんも界面活性作用がありますが、分解されやすいというのが合成洗剤との大きな違いです。

石けんは下水処理をしなくても1日ほどで99.9%以上完全分解しますが、合成洗剤は数十日以上かかるものもあり、環境負荷が大きく違ってきます。

そして、合成洗剤は下水処理でも5~15%は完全分解されずそのまま放流されてしまいます。河川や海に流された合成洗剤の物質は海底のヘドロとなり、巡り巡って私たちの体に入ってきます。

その結果、生態系を脅かす存在となってしまいます。

日本消費者連盟の、石けんと合成洗剤の違いを示すカイワレの生育実験ではその差がはっきりと出ています。



石けんと合成洗剤の違いを示すカイワレ実験(種まきから1週間)。水、石けんは同程度に生長しますが、合成洗剤は根の生長点を破壊するため生長しにくい

(日消連・洗剤部会)

出典:消費者レポート

No.1683 2024.7.20

私たち1人ひとりが、各家庭の排水溝の先が川や海であることを意識した行動が必要と言えるのではないのでしょうか。

合成洗剤があふれている世の中で、町ぐるみで環境改善に取り組んでいる地域があります。

- ① 岩手県宮古市重茂(おもえ)地域
(よつ葉生協のくらはで、わかめやめかぶなどを案内している重茂漁協のあるところ。)

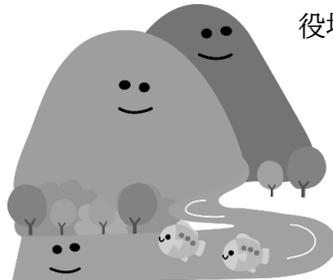


本州最東端の太平洋に面した半島で、沖合には寒流と暖流がぶつかる好漁場が広がり、山々から流れ出すミネラル豊富な清流が魚介類を育み、わかめやめかぶ、あわび、うに・・・と海産物が自慢の美しい場所です。

1970年代にあわびの水揚げが減少し、自分たちが使っている合成洗剤が影響していることに気づき、合成洗剤の追放運動をスタートさせました。

地域で合成洗剤の使用を禁止し、「合成洗剤追放運動(売らない!買わない!使わない!)」の看板があちらこちらに設置されており、小中学校などの公共施設ではすべて石けんが使われています。

- ② 北海道厚岸町
北海道の東海岸にある、漁業と農業が基幹産業の小さな町です。環境を守ることによって町を豊かにし、そこに住む人々が健やかに生きるため力を入れてきた地域です。



役場・学校・特別養護老人ホームの厨房・集会所の台所など、町のすべての施設で合成洗剤を排除し、石けんを使用しています。

また、広報誌などで啓発活動をするなど、自治体の積極的な姿勢が頼もしい町です。

厚岸町のユニークな取り組みとして、石けん購入指定店で対象となる石けんを購入すると、定価の25%割引!この取り組みが始まって30年近くなるとのことですが、ぜひ後続自治体が出てくることを願いたいところです。

- ③ 香川県小豆島
国立公園に指定されている、瀬戸内海に浮かぶ島です。1983年に設立された「小豆島環境とくらしの連絡会」は活動開始から40年、合成洗剤から石けんへの切り替えを呼びかけ続けています。長い活動の間に自然環境やくらしを脅かす様々な問題に直面しながらも、石けん生活で体調不良が改善した方、またその体験談を伝えることで効果をあげています。

他にもホームページで「洗剤は適正な量で使用を」と促す自治体などもあり、まだまだ途上とはいえ、わずかながらも希望が見えている部分も感じます。

まずは、自分の足元から。世界中の人々が協力すれば、水質が20%改善されるとも言われます。

さあ、今日からちょっと取り組んでみませんか。

参考:「日本消費者連盟 消費者レポート」No.1683、1689

(理事 篠原)

果物大国 山形県・福島県より

森谷果樹園（さくらんぼ）・佐久間農園（すもも）へ訪問してきました！！

お二人とも前々から有機栽培を目指し、取り組みをされてきた生産者です。現在の気候で、果樹栽培において有機基準で行うことは大変難しく、最低限の化学合成農薬は使用した特別栽培になります。

もりや
森谷果樹園

森谷さんはとても物知りで話し上手。自宅の他にログハウスがあり、ここで打ち合わせをします。昨年初めてお伺いしたのに、よつ葉生協の事をきちんと把握してくれておりました。果樹に愛情を持ち、良いと聞けば新たな栽培方法も試します。温度が低く、ハチが飛ばなければ、毛バタキでの人工授粉することも厭いません。今年は圃場にはびこるスギナなどの野草を摘み取り、煮だし漢方農薬として果樹に撒いているとの事。

昨年は開花がはやくハチが飛ばないことによる受粉問題や、霜による障害があったこと。また、高温が続きさくらんぼの双子果が問題とされました。今年は、開花は例年並みで気温的にもそこまで高くない。昨年よりは問題はなさそうでした。しかし、花卉を取ってみると実になる子房が、本来は1つのところ2個並んでついている…。6個ほど花卉をとらせて頂きましたが4つが双子果になる子房でした。これも昨年の暑さによる影響がまだ残っている証拠。双子果と言えど、味は正規品と同じさくらんぼ。よつ葉生協としましては、昨年に引き続き双子果のさくらんぼも正規品としてお届けさせていただきます。

森谷さんの果樹管理はとても速い…。摘花も今までの経験から、その部分を摘むのか判断が早く、剪定もまた同じで次に育てる枝を決める判断が早い。ほとんどの圃場を一人で行うそうです。

圃場面積は、手が足りず余ってしまっている土地を年々引き受けており、増加中。その理由が、次世代の方でやりたい！と言ってくれた方にきちんと渡していけるようにとの事。今後、さくらんぼ以外の果樹でもお付き合いができるように、これからも応援していきます。

佐久間農園

佐久間さんは桃の一大産地福島県福島市の山間で、桃とすももを栽培しています。とても穏やかな佐久間さんは代々続く農家。農業高校を卒業し、友人から誘われ、有機栽培の道へ。福島県で、有機認証を取得した第一号として、栽培した有機じゃがいもは北海道の酒造に納め、焼酎になったそうです。敷地内には土蔵が残り、自身で作ったツリーハウスや、つり橋があります。このつり橋を渡れないと果物を納品させてもらえないということで、きちんとわたってきました！

佐久間さんの圃場には様々な品種が植わっており、すももだけでも樹の幹や枝ぶりが品種によって全く違うことがわかりました。下草の管理も綺麗で、丁寧な作業をされる方ということがわかります。

今年の生育状況としては、ソルダムと貴陽の受粉率が低いこと。また気候の影響で、生育が遅れている品種もあるとのことです。今年初めて始まった佐久間農園ですが、これから宜しく願い致します。

(商品部 間中)



双子果の子房

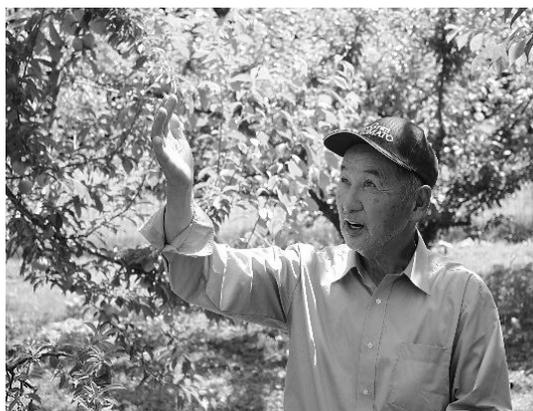


双子果



森谷さん

森谷農園紹介動画



佐久間さん



佐久間さん自作のつり橋



すもも

参加してみませんか

<お問合せ よつ葉生協 組合員組織部 TEL 0120-07-1613>

佐野

常備野菜の使い切り節約クッキング

おうちにある常備野菜(じゃがいも、たまねぎ、にんじん)を残すことなく使い切って、楽しい節約料理を作りましょう!デザートでキャロットケーキも作ります。

日時:7月24日(木)9:30~14:00(受付9:15~)

会場:みかもクリーンセンター リサイクルプラザ
(栃木県佐野市町谷町206-13)



参加費:組合員 大人600円 子ども(小・中学生)300円
一般 大人800円 子ども(小・中学生)300円
※未就学児 無料

定員:15人

託児:なし

締切日:7月4日(金)

主催:ミモザいのちと食の委員会



組合員さんの声

5月5日号のよつ葉だよりに深谷もやしの飯塚商店の訪問がありました。

連休中も通常通りの配達ありがとうございました。水曜日コースなので5月7日のNHK8:15~のあさいちでもやしがり取り上げられていました。

かさ増し料理だけでなく、主役の料理にも、煮ても、あげ物でも、干して保存等、その中で深谷もやしも取り上げられ飯塚商店のご夫婦が...もやしをほどいて水洗いの手さばきのよさ、値段も納得。もしかしたら生協の深谷もやしはこれかなと思っていたら、よつ葉だよりをみてやっぱり。(上三川地区 H・Iさん)

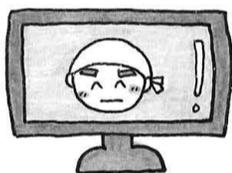
NHKあさいちでも、もやし特集を見たので、今回のよつ葉だよりのもやし記事を読んで手間ひまかけて作る飯塚商店さんのもやしを応援したくなりました。もやしの根からも良いだしが出る事も知ったり、レシピを見ていろいろ作ってみようと思います。(伊勢崎地区 S・Nさん)

<深谷もやし飯塚商店さんの記事を読んで>

飯塚さんのもやしへの愛情がとてモイ云わてきました。なぜ深谷もやしはいいお値段がするのかが分かってすっきりしました。

もやしの根っこから出汁が出ることも初めて知りました。レシピも重宝しています。

(佐野地区 A・Tさん)



2025年5月7日 NHK「あさいち」のもやし特集で飯塚商店の「深谷もやし」が紹介されました。

現在募集中のイベント

7月19日(土) やさと農業体験②

「野菜の収穫をしよう!」

お申込みはこちら

×切 7月4日(金)



ご意見・ご感想をお寄せください。お名前と組合員番号をご記入の上、共同購入注文書またはお手紙でお願いします。掲載の方には粗品をプレゼントいたします。※掲載するにあたって事前ご連絡をすることはありませんので、ご了承ください。

東日本大震災・東電原発事故での支援金 募金報告 (6月1週分)

ご協力ありがとうございます。

組合員さんの温かいお気持ちが今週も寄せられています (単位:円)

放射能から子どもを守る募金 (900番)	6,000
震災孤児を支援する募金 (910番)	19,900
「有機農業と国産種子」募金 (920番)	6,300
合計	32,200

共同購入注文書裏の「10品以上の記入欄」に該当番号と数量をご記入ください。WEB注文の場合は、左側「企画商品・募金」内の「募金関連」をクリック。一口100円の募金になります。

●編集・発行よつ葉生活協同組合 小山市栗宮1223

☎0120-07-1613 TEL 0285-45-9100 FAX 0285-45-9101

HP <https://yotsubacoop.jp/>

よつ葉だよりメールアドレス yotsubadayori@yotsuba-coop.jp



ホームページ



Facebook



Instagram

ニーズに合わせて選べるCO-OP共済の4つの保障

入院、手術、ケガ通院などの保障を
月々1,000円からの掛金で



10年満期の
生命、入院、がんの保障



一生涯の医療保障を
加入時からずっと変わらない掛金で



一生涯の生命保障を
加入時からずっと変わらない掛金で



契約引受団体/日本コープ共済生活協同組合連合会

(「たすけあい」はご加入の生協によっては、その生協の加盟する連合会との共同引受になります)

(CO-OP共済に加入するには)

出資金をお支払いいただき、お近くの生協の組合員になる必要があります。

お問い合わせ先: よつ葉生活協同組合



D-240481-0

よつ葉生協ホームページの専用バナーからもご加入いただけます。→